

芝学園中学校 過去問分析

参考資料：芝中学校赤本（2018～2022）

目的：芝学園の出題傾向と、合格に向けた対策を分析した
資料を作成する

受験者数傾向

・応募状況

年度		募集者数（人）	受験者数（人）	合格者数（人）	倍率（倍）
2022	第1回	150	482	193	2.5
	第2回	130	757	282	2.7
2021	第1回	150	445	187	2.4
	第2回	130	715	293	2.4
2020	第1回	150	432	188	2.3
	第2回	130	756	268	2.8
2019	第1回	150	500	189	2.6
	第2回	130	868	277	3.1
2018	第1回	150	583	185	3.2
	第2回	130	975	288	3.4

芝学園赤本p.3を改変

・偏差値の推移

年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
第1回	59	60	60	60	60	59	59
第2回	65	65	65	64	65	63	63

<https://labo-g.net/deviation-10y-m>を改変

模試での志望者数に対して、実際の受験者数は減っている？

→模試での偏差値よりも、受かりやすい学校だったりするのだろうか？

→偏差値的には厳しくてもチャレンジすれば、意外と受かるのかもしれない。

合格者の得点傾向

国語、社会、理科では差が付きにくく、
合格者平均点と不合格者平均点の差は7～13点程度である。
一方、算数での差は大きく、19～29点程度。
不合格者平均点と合格者最低点（合格ライン）の差は26～38点程度であるため、**算数対策が最重要**。

年度		項目	国語	算数	社会	理科	全教科合計	合格者
2022	第1回	配点	100	100	75	75	350	最高点
		合格者平均点	76	67	42	44	229	299
		受験者平均点	71	52	38	37	198	最低点
		不合格者平均点	68	42	35	32	177	210
		合格者-不合格者	8	25	7	12	33（合格者最低-不合格者平均）	
	第2回	配点	100	100	75	75	350	最高点
		合格者平均点	76	63	41	44	224	312
		受験者平均点	68	48	37	36	189	最低点
		不合格者平均点	63	39	34	32	168	203
		合格者-不合格者	13	24	7	12	35（合格者最低-不合格者平均）	
2021	第1回	配点	100	100	75	75	350	最高点
		合格者平均点	49	69	47	50	215	269
		受験者平均点	44	53	42	45	184	最低点
		不合格者平均点	40	42	39	41	162	194
		合格者-不合格者	9	27	8	9	32（合格者最低-不合格者平均）	
	第2回	配点	100	100	75	75	350	最高点
		合格者平均点	72	54	45	43	213	266
		受験者平均点	66	43	40	38	187	最低点
		不合格者平均点	62	35	37	34	169	195
		合格者-不合格者	10	19	8	9	26（合格者最低-不合格者平均）	
2020	第1回	配点	100	100	75	75	350	最高点
		合格者平均点	59	67	43	38	206	258
		受験者平均点	55	54	39	34	181	最低点
		不合格者平均点	51	44	36	30	161	189
		合格者-不合格者	8	23	7	8	28（合格者最低-不合格者平均）	
	第2回	配点	100	100	75	75	350	最高点
		合格者平均点	57	70	46	43	216	283
		受験者平均点	51	54	40	36	182	最低点
		不合格者平均点	48	45	37	32	163	197
		合格者-不合格者	9	25	9	11	34（合格者最低-不合格者平均）	
2019	第1回	配点	100	100	75	75	350	最高点
		合格者平均点	56	68	43	49	215	254
		受験者平均点	50	54	39	44	186	最低点
		不合格者平均点	46	45	36	40	167	196
		合格者-不合格者	10	23	7	9	29（合格者最低-不合格者平均）	
	第2回	配点	100	100	75	75	350	最高点
		合格者平均点	56	70	46	49	222	275
		受験者平均点	50	50	41	42	182	最低点
		不合格者平均点	46	41	39	38	164	202
		合格者-不合格者	10	29	7	11	38（合格者最低-不合格者平均）	
2018	第1回	配点	100	100	75	75	350	最高点
		合格者平均点	59	71	42	44	216	274
		受験者平均点	50	55	37	37	179	最低点
		不合格者平均点	46	48	34	34	162	197
		合格者-不合格者	13	23	8	10	35（合格者最低-不合格者平均）	
	第2回	配点	100	100	75	75	350	最高点
		合格者平均点	57	70	43	47	217	265
		受験者平均点	50	53	38	39	179	最低点
		不合格者平均点	47	45	35	36	163	199
		合格者-不合格者	10	25	8	11	36（合格者最低-不合格者平均）	

算数の出題傾向

		計算	和と差	割合と比	速さ	図形	表とグラフ	数の性質	規則性	場合の数	条件の整理
2022	第1回	○	○	○	○	○	○			○	
	第2回	○	○	○	○	○	○			○	
2021	第1回	○		○		○	○	○	○	○	
	第2回	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
2020	第1回	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	第2回	○		○	○	○	○	○	○		○
2019	第1回	○	○	○		○	○		○		
	第2回	○	○	○	○	○			○	○	
2018	第1回	○	○		○	○		○	○		
	第2回	○		○	○	○			○	○	

芝学園赤本を改変。

幅広い分野から出題される傾向があるが、**計算と図形は必出。**
また、途中点は一切ないため、**ケアレスミス対策は必須。**

		大問数	小問数	合格者平均	受験者平均	不合格者平均	合格-不合格
2022	第1回	9	16	67	52	42	25
	第2回	8	17	63	48	39	24
2021	第1回	10	19	69	53	42	27
	第2回	10	18	54	43	35	19
2020	第1回	10	17	67	54	44	23
	第2回	9	20	70	54	45	25
2019	第1回	9	15	68	54	45	23
	第2回	9	14	70	50	41	29
2018	第1回	9	14	71	56	48	23
	第2回	9	15	70	53	45	25

* 不合格者平均点は、合格者平均点、受験者平均点および倍率から算出（芝学園赤本のデータを改変）。

大問数は8～10、小問数は14～20。1問あたりの得点は、5～7点。
小問2問で構成された大問は、（1）は基本問題相当、（2）は練習問題相当。

不合格者はほとんどの年で、50点も取れていない。
小問が2問の大問のうち、基本問題相当の（1）は解けても、
練習問題相当の（2）は解けていないのだろう。

一方の合格者は、70点近く取れている年が多い。
合格者は半分近くの大問を、完答できているということになる。

合格には基本問題だけでなく、練習問題も解けるだけの実力が必要だろう。

算数を軸とした合否の分かれ目

		算数					
		大問数	小問数	合格者平均	受験者平均	不合格者平均	合格-不合格
2022	2/1	9	16	67	52	46	21
	2/4	8	17	63	48	42	21
2021	2/1	10	19	69	53	46	23
	2/4	10	18	54	43	38	16
2020	2/1	10	17	67	54	48	19
	2/4	9	20	70	54	48	22
2019	2/1	9	15	68	54	49	19
	2/4	9	14	70	50	44	26
2018	2/1	9	14	71	56	51	20
	2/4	9	15	70	53	48	22

* 不合格者平均点は、合格者平均点、受験者平均点および倍率から算出（芝学園赤本のデータより）。

大問数は8～10、小問数は14～20。1問あたりの得点は、5～7点。
合格者と不合格者の間には、20点前後の点差がある。

合否の分かれ目が算数となっているのは間違いない。

また、不合格者はほとんどの年で、50点も取れていない。
基本的な解法がわかっているならば解ける、と過去問には書いてある割に、
実際の得点率はすこぶる悪い。

一方の合格者は、70点近く取れている年が多い。

合格者は半分近くの大問を、完答できているということになる。

合格には基本問題だけでなく、練習問題も解けるだけの实力が必要だろう。

国語の出題傾向

少なくとも、2018～2022までの5年間、
大問4つで構成されている。

大問①、②は漢字の書き取りが10問出題される。配点は合計20点。

解答には漢字だけでなく、熟語の知識も必要となる。

大問③は説明文、大問④は小説が出題されており、いずれも
小問4問で構成される。配点は合計80点。

そして、**大問③、④の小問は全て、30～40字、80～100字程度の
記述問題**となっている。

高難易度な国語を逆手にとって、合格に結び付けられるか？

		合格者平均	受験者平均	不合格者平均	合格-不合格
2022	第1回	76	71	68	8
	第2回	76	68	63	13
2021	第1回	49	44	40	9
	第2回	72	66	62	10
2020	第1回	59	55	51	8
	第2回	57	51	48	9
2019	第1回	56	50	46	10
	第2回	59	50	46	13
2018	第1回	58	50	46	12
	第2回	57	50	47	10

漢字が2点 x 10問で20点分。

記述問題1問あたりの点数が8～14点で、合計80点分。

漢字は簡単なものばかりなので、各受験者は16点程度は

取っていると仮定すると、

- ・合格者の記述得点は、80点中41～60点
- ・不合格者の記述得点は、80点中24～52点。

平均点が高い年もあるが、低い年であれば、記述で高得点を得ることで、合格に結びつけることも可能。

記述ばかりなので、活字に慣れ親しむことは必須。

新聞を読んだり読書をしたりしていると有利だろう。

しかしながら、物語文の記述問題に関しては、読書経験と勘に頼って解くと失敗する可能性が高い（2021.2.1の物語文が特に顕著）。

書いてある情報から最適解を導き出すという、体系立った解法の会得が重要。

また、記述問題ばかりのため、過去問の採点が難しい。

各家庭に任せるよりも、塾できちんと採点・指導したほうがいいのではないか。

書いてある情報から最適解を導き出すのがテクニックとしての要素が強いのであれば、過去問体験と並行して指導を行うことで、合格に近づけることは可能かもしれない。

まとめ

- ・ 偏差値が変わっていない割に、受験者数は減少している。
→チャレンジすれば、意外と合格する？
- ・ 4教科の中で、合否の分かれ目となっているのは算数。
→算数対策が必須
- ・ 算数
 - ・ まんべんなく出題されるが、計算と図形は必出。
→図形対策が重要
 - ・ 途中点はない。
→ケアレスミス対策は必須。
 - ・ 合格のためには、半分近くの大問を完答する必要がある。
→練習問題を解けるだけ実力が必要。
- ・ 国語
 - ・ 記述問題が大部分。
→活字に慣れる必要がある。また、勘に頼らない、
体系立った解法を身につける必要がある。
 - ・ 記述問題の採点は難しい。
→塾で指導するのが有効。